

## モニタリング項目 No. 19 のとりまとめ方法について

## 1 基本的な考え方

- モニタリング項目 No. 19 「適正利用に向けた管理と取組」の評価指標「管理と取組の実施状況」について、具体的かつ経年的な記録として毎年とりまとめられる知床白書を対象に調査した。
- 対象年の知床白書から、適正利用に関連する管理と取組を一定の基準で抽出し、「知床エコツアーリズム戦略 9. 具体的方策」に示された 8 つの観点ごとに振り分け、実施状況を取りまとめた。

## 2 対象期間および範囲

- 知床白書の刊行に併せて毎年とりまとめる。最新版は 2017 年度（平成 29 年）。
- 過年度の実施状況については、遺産登録年度から 5 年を周期にとりまとめることとする。（2010 年（平成 22 年）、2015 年（平成 27 年））
- 白書の発行年と取りまとめの対象年を下図に示した。

	知床白書	No19 調査 とりまとめ
2005 年度 (H17)	発刊なし	-
2006 年度 (H18)		
2007 年度 (H19)		
2008 年度 (H20)		
2009 年度 (H21)	○	
2010 年度 (H22)	○	○
2011 年度 (H23)	○	
2012 年度 (H24)	○	
2013 年度 (H25)	○	
2014 年度 (H26)	○	
2015 年度 (H27)	○	○
2016 年度 (H28)	○	
2017 年度 (H29)	○ (最新)	○
2018 年度 (H30)	取りまとめ中	

### 3 作業方法と抽出基準

- 知床白書の全頁を対象に、「観光」「エコツーリズム」「レクリエーション」「適正利用」等に関わるトピック・報告を抽出し、「知床エコツーリズム戦略9. 具体的方策」に示された8つの観点に分類した。
- 抽出した内容について、「新規」「継続」の区別を判断した。継続案件については、可能な限り開始年を付した。また、ルールや規模が変更され、利用者数や観光の質に大きな影響が生じたことが想定される場合、「変更」と併記した。
- 定量的な情報（実施期間や実績、努力量）が掲載されている場合は、備考欄に記載した。
- 会議開催、遺産地域外の工事、法令・ルールの運用、長期モニタリング計画に基づく調査（生息状況調査等）は原則対象に含めていない。

### 4 抽出にあたっての留意点

- 複数の分類にまたがる取組の場合は、必要に応じて重複して掲載した。
- 「情報の発信」は、知床白書において体系的にまとまっていないため、該当すると考えられる主要な内容のみ抽出している。
- 2009年以前は白書の発行がないため把握できない。
- 過去の知床白書について、年度により編集内容や構成が異なる。例えば、政策目標を達成したため完了したもの、予算等の都合で取りやめとなったもの、経常的な業務となり掲載（報告）されなかったものなどが混在している。
- 行政（主に遺産管理者）の取組が中心である。